

平成30年12月28日発行

ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第45号

平成29年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.45 2017*



福岡県保健環境研究所

はじめに

地球温暖化の影響なのか世界各地で極端な気象・気候現象が頻発しています。福岡県においても平成 29 年度の県政 10 大ニュースのトップは、「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」災害の発生でした。今までに経験したことのない災害で、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、当所における平成 29 年度の主な出来事や取り組みについて御紹介します。

最初に保健分野では、人獣共通感染症対策として、ダニを媒介とした家庭で飼育されているペットの重症熱性血小板減少症候群(SFTS)感染調査等を実施しました。また、近年問題となっている薬剤耐性菌対策の一環として、感染症の治療に多く使われるカルバペネム抗菌薬に耐性を示すカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の検査を開始しました。これは突発的な事例ですが、高齢者施設における原因不明の呼吸器疾患の集団発生を受けて、原因究明を行いました。なかなか感染源が判らなかったのですが、国立感染症研究所の協力を得て解明することができました。

食中毒関連では、ノロウイルスによる食中毒が多発していることを受けて、抗ウイルス薬のスクリーニングを始めています。また、腸管出血性大腸菌による食中毒の広域発生事例に対応するため、遺伝子検査体制を整備しました。

医薬品関連では、ジェネリック医薬品の利用拡大に向けて自動溶出試験機を更新し、品質試験に本格的に取り組んでいます。

環境分野では、5 月に発生した産業廃棄物中間処理施設火災への対応が挙げられます。周辺住民への健康影響が心配されたこともあり、計測技術課、大気課、水質課及び廃棄物課の 4 つの課が協力して、廃棄物及び周辺環境の調査を実施しました。特に「燃えた廃棄物」の分析は困難でしたが、分析工程を工夫することにより分析時間の大幅な短縮に成功し、火災の事後処理に貢献することができました。

また、英彦山及び犬ヶ岳生態系回復事業の一環として、絶滅危惧植物の種子の採取・保存やシカ柵の設置等を行いました。

国際協力関連では、中国大気環境改善のための都市間連携事業として、福岡県が進めているモデル事業の評価のため職員を江蘇省に派遣しました。また、日韓海峡沿岸県市道環境技術交流事業として、平成 28 年度に引き続き、大気中の揮発性有機化合物調査を実施しました。さらに、福岡県とインド・デリー準州友好提携 10 周年記念事業のひとつとして開催された大気環境セミナーに講師として職員を派遣しております。

所内に目を向けますと、28 年度の「若手ミーティング」に引き続き、29 年度は入庁 2 年目の職員を対象とした「所内インターンシップ」を実施しました。短い時間ですが、所属課と異なる課での体験は、今後、彼らのキャリア形成に役に立つものと考えています。

私たちを取り巻く環境は刻一刻と変化しています。私たちはそれに取り残されることなく、業務を行っていく所存です。なお一層の御指導、御鞭撻をよろしくお願いします。

平成30年12月

福岡県保健環境研究所長 香月 進